

		実施地域（現状 広田、小友、矢 作）の人口の1割 を超える。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 広田町：17人 ・ 小友町：18人 ・ 矢作町：17人 ※人口は広田町約3000 人、小友町約1900人、 矢作町約1400人
SET, 活動する地 域の住民	CMSPを通して生 まれる、資金の 流れを地域内で 循環させる取り 組み数	CMSPを通して生 まれる、資金の 流れを地域内で 循環させる取り 組み数が、広田 で3つ以上生まれ ている。	2022年10月	資金の流れを地域内で 循環させる取り組み数 は0

②アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」※任意

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
CMSP参加者の内、 ・ 次期プログラムスタッフが 4割 ・ 上記以外で継続的に地域で 活動する人が2割いることを 目指す。	<2021/4～2022/3> CMSP参加者のうち、 ・ 次期CMSP運営スタッフ割 合：3割 ・ 上記以外の地域で活動する 割合：0	継続的に地域に関わりたと思っ ている学生は全体の9割であるが、スタ ッフ継続は3割にとどまっており、全 体の4割はCMSP終了時には地域やCMSP との関わり方を明確に見出せていな い。 学生は多様な関わりを求めている （地域の人とのコミュニケーション を深めたい70%、地域のためになるこ とにチャレンジしたい46%、色々な分 野の活動に参加したい33%）ので、CM SPスタッフになる以外の具体的な選 択肢を増やし、地域へ関わる幅を拡 げていく必要がある。 具体的な選択肢としては、当法人の 別事業のインターン生として受け入 れる制度をつくることが考えられ る。
CMSPの活動に関わる地域の人 が、プログラム実施地域（現 状広田、小友、矢作）の人口 の1割を超える。	2021/4～2022/3で実施したプ ログラムに関わった住民の数 ・ 広田町：17人 ・ 小友町：18人 ・ 矢作町：17人 ※人口は広田町約3000人、小 友町約1900人、矢作町約1400 人	左記の結果は、CMSPスタッフが直接 的に交流できた地域住民の数であ る。 CMSPの活動に関わる地域住民数につ いては、CMSPの活動によって直接/ 間接に関わる住民の数を考慮して測 定するための定義をつくる必要があ る。 また、活動に関わる住民が地域のキ

		<p>一パーソンから地域住民に波及するために、CMSPの活動報告を実施することによって活動の浸透をはかることが関わる住民を増やすうえで必要であると考える。</p>
<p>CMSPを通して生まれる、資金の流れを地域内で循環させる取り組み数が、広田で3つ以上生まれている。</p>	<p>資金の流れを地域内で循環させる取り組み数は0</p>	<p>資金の流れを地域内で循環させる取り組みは実施できていない状況である。</p> <p>広田町では、漁協へのヒアリングを実施し、漁協が抱えている課題の把握をすることができたが、地域内で資金の流れを循環させるためには地域側がコミットした活動がないと実装するのが難しい現状である。</p> <p>資金の流れを地域内で循環させる取り組みを生み出すためには、引き続き協議を重ね、取り組みを生み出していく必要がある。</p> <p>なお、Yahoo!基金 2022年度 被災地復興調査助成において、コミュニティビジネスの取り組みを申請したが、採択には至らなかった。引き続き、資金獲得の動きを続ける必要がある。</p>

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しいと自己評価する</p>	<p>今年度の活動では、短期アウトカムおよびその先にある中・長期アウトカムの達成に向けて適切に事業を改善できていると考えられる。</p>

B) 事業の改善状況の評価

①事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	<p>①事前評価以降、事業を取り巻く環境（政策、経済、社会など）の変化はないか</p> <p>②意図した対象者に事業は届いているか</p> <p>③当初設定された目標に対し、課題として想定されていた事項の解消に向けた活動の進捗は順調か</p>	<p>①新型コロナウイルスのワクチン接種等によって、都会の大学生と地域住民の交流は緩和傾向にある</p> <p>②地域課題の解決のために、地域課題を抱える人々とそれを主体的に解決できると人と関わる必要がある</p> <p>③各地域において課題の把握と活動を適切に実施する必要がある</p>	<p>①陸前高田市では今年度から本格的に修学旅行民泊受入を再開し、都会の若者と地域住民の交流が再開する等の「対面による交流」が復活しつつある。また、広田町では地域住民が主催するお祭りが開催決定している。</p> <p>よって、今年度からはCMSPにおいては地域住民の感情を考慮しつつ対面によるプロジェクトの実施とオンライン活用の両面から関係人口の幅を拡大することが望ましいと考える。</p> <p>②地域課題の解決のために、課題を抱えている人々はどのような課題を抱えているのか、また、その課題を主体的に解決できる人はどのような人で、どのように繋がることのできるのか、あるいはどのような仕組みをつくることのできるのか検討する必要がある。</p> <p>③広田町においては、CMSPの活動がかなり浸透しているため、地域課題を地域内の継続性を高めることであると設定し、課題解決のための活動としてコミュニティビジネスに取り組んでいる。</p> <p>小友・矢作町においては、地域課題を適切に設定する必要がある。今年度の活動から見えてきた課題としては、それぞれ</p> <p>小友町：震災による高台移転の影響でコミュニティの繋がりが希薄化している</p> <p>→地域活動を担う団体やコミュニティ、キーパーソンとの繋がりが薄い</p> <p>ため、誰が主体的に地域を担っているのかを探し、大学生と地域課題を解決できるための方途を見出す必要がある。</p> <p>矢作町：高齢化や人口減少による地</p>

			<p>域文化の担い手減少と林業の衰退 →伝統文化の神楽は後継者不足、生 生地区最大の祭りである「おいで木 炭まつり」は運営が困難になって5 年前に終了している。（祭りは、昭 和30年代後半まで生出の経済を支え た木炭づくりを通じて地域おこしを と、同62年に始まった。） 地域を支えていた林業は衰退し、森 林を手入れするのが困難になってい るため、害獣被害も増加している。 地域を支えてきた森林の活用方法を 見出し、森林に主体的に関わる人を 増やすことが地域課題の解決にとっ て重要だと考える。</p>
<p>実施をとおした活 動の改善、知見の 共有</p>	<p>①アウトプット発生 に影響を与えた阻 害・貢献要因は何か</p> <p>②事業の進捗におい て必要な実施事業の 見直しが行われてい るか</p>	<p>①地域住民を集め ることができなかつ たため、地域課題 を適切に捉える ことが難しく、プ ログラムのアウト プットに影響が出 た。また、学生を 募集するための戦 略を整備する必要 がある</p> <p>②資金分配団体と 協議を重ねなが ら、事業設計と実 際の活動のブラッ シュアップを実施 できている</p>	<p>①地域課題を把握するにあたっては 関係性のある地域のキーパーソンへ のインタビューを実施したが、聞き 取った内容が地域全体の地域課題か どうかまでは明らかにできず、活動 のアウトプットもインタビューを実 施した人が抱える課題へのアプロー チが目立ったといえる。 地域課題を把握するには、地域住民 を巻き込む活動を実施するための仕 組み作りが重要であり、協議会の設 置によって地域課題の把握と住民の 主体性を生み出す必要があると考 える。 学生募集については、2022年度はス タッフ募集にあたって有料のボラン ティア募集プラットフォームを利用 し、「超実践型まちづくりインター ン」として学生を募ったところ、応 募者中8人がスタッフになるという 成果を得られた。今後は、CMSPに 参加する学生はどのように集まり、ど のようなモチベーションで参加して いるのかを把握するとともに、外部 サービスを効率よく利用する戦略を 継続すべきだといえる。</p> <p>②地域課題の解決に向けた活動が着 実に実施できるように、これからも 定期的な実施報告や活動の改善を協 議する必要がある。</p>

組織基盤強化・ 環境整備	団体運営の基本規定や 運用体制などを構築で きているか	事業期間中に整備 すべきガバナ ンス・コンプライ アンス規定につ いては整備が完了 している	必要に応じてその他規定類の整備を 進めていく。
-----------------	-----------------------------------	---	----------------------------

②短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

地域住民との関わりについては、いかに地域住民を巻き込むことができるのかがプログラムの価値を高めるための大きなテーマであったが、そこには至っていない。2021年度の活動においては、地域住民への巻き込みという観点を意識したが、地域のキーパーソンへのインタビューなどを通じて地域課題を見出すことが出来た程度までで止まっており、地域全体を巻き込む活動にはなっていない。地域住民を巻き込んだ課題解決のプログラムにするためには、地域住民が主体的に関わる仕組みや場所が必要である。

今年度の活動においては、協議会の設置によって、当法人の活動の浸透や地域住民の巻き込みを具体的な仕組みに落とすことが必要になる。

③事前評価時には想定していなかった成果

2021年度の活動は新型コロナウイルスの影響によってほとんどの活動をオンラインで実施せざるを得なかったが、それでも夏季プログラムから春季プログラムへの継続時は例年通り3割の学生がスタッフになった。

要因として考えられるのは、プログラムをオンラインで実施したため、時間的・金銭的な参加ハードルが現地に来る場合よりも相当低かったことが考えられる。また、オンラインの場合であっても現地入りのような雰囲気づくりを意識し、地域住民の声や地域の状況を丁寧に伝えるなどの工夫を重ねたので、実際に現地に来てみたいという気持ちを生み出せたと考えられる。

④事業計画（実行団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット→アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金分配・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカムの指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</p>	<p>CMSPを通して地域課題の解決、地域課題の解決に向けてCMSPおよび当法人が地域の中で具体的にどのような活動をするのかが分かる内容になっていることが重要であり、今年度の事業計画はそれに向けて適切に改善されたといえる。</p>

⑤中間結果をふまえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

短期アウトカム指標を適切に測定するための定義や調査方法を策定する必要がある。また、大学生がCMSPに参加するモチベーションや参加後の意識の変化などを調査し、学生募集のための知見などに生かしたいと考えている。